

創業70余年の歴史に 新しい革新の風を吹き込む



海藻パウダー。上から時計回りにめかぶ、ひじき、ふのり、こんぶ

事業 概要

平成30年度
補正

海藻パウダー新市場開発のための 密閉式連続海藻パウダー生産ライン革新事業

既存の海藻パウダー製造ラインを密閉式にすることで製品の安全性を向上し、生産性を上げる。
これまでの食品業界だけでなく、より厳しい品質管理が求められる健康食品や美容品業界などの新しい販路を開拓し、海藻パウダーを事業の軸に育てる。

三陸・北海道の海藻を販売 海藻の新しい使用法を提案

栗原市にある大平昆布は、主に北海道産の海藻を扱っている。戦時中に樺太(今のサハリン)で生まれた初代が、栗原に戻って1948年に北海道とのネットワークを活かして創業した。昆布やわかめなどの加工と卸を手掛け、松前漬けなどに使う刻み昆布が加工の約半分を占める。価格面で他社との競争が激しく、利益確保が難しくなっていた。海藻を粉末化した海藻パウダーは、現社長が10年以上前から始めた。製麺に使用したり、化粧品やサプリメントなど健康志向の高まりから需要が伸びて

いたが、既存の生産ラインで注文に応えるのが難しくなっていた。



小売り昆布の袋詰め作業

製造ラインを自動化し 安全性と生産性を向上

これまでは微粉碎機、ふるい機、充填機などがそれぞれ独立し、機械間の移動は袋に詰めての手作業。手間がかかるのはもちろんのこと、異物混入のリスクが高くなっていた。納品した製品に髪の毛が混入し、受注停止となった経験が今回の生産ライン自動化に繋がっている。それぞれの機械を直径5センチの軟質塩化ビニール製ホースで連結し、砕いたパウダーを空気圧を使って吸い上げ、粒を揃えて金属探知機を通して1kgのパック詰めするまでを機械化した。これにより異物混入を防ぐのはもちろん、生産量も大幅にアップした。以前は生産能力の関係で断ったコンビニの麺にも対応出来るようになり、取り引きが増えた。



空気輸送で海藻パウダーを吸い上げ、
ふるいにかけてバック詰めする



自動化した海藻パウダー生産ライン

“MASAMI”のヘアケア製品
シャンプーは38ドル



海藻パウダーを事業の軸とし 競合他社との差別化を図る

「“MASAMI”というアメリカの化粧品メーカーのシャンプーにも、うちのめかぶパウダーが使われています。70年続いてきた会社なので、これまでのお客様を大事にしつつ、美容品関係など新しいお客様も取り込んでいきたいと思っています」と専務取締役の伊藤謙太郎さんは語る。ISO22000の認証を取得し、古い体質の昆布業界にあって食品安全にも力を入れている。コロナ禍の影響により、自宅で食事をする人が増えたためか、スーパーなどでは、だし関連の需要が増えているという。そこでも海藻パウダーが求められている。これまでの刻み昆布に代わり、新しい販路を開拓し、海藻パウダーを事業の軸として育てていく。

会社の強みは何ですか？



海藻業界で70年間培ってきた専門知識と、仕入れから販売までの商流を持っていることです。また古い会社の多い昆布業界でISO22000の認証を取得、継続していることは、取引上の安心感に繋がると思います。

海外のメーカーと繋がったきっかけは？



“MASAMI”社の一人が日本人で、私どものHPから海藻パウダーを見つけ、実際に工場を訪問してもらい製品化に繋がりました。今は個人輸出の段階ですが、今後ビジネスとして、さらに拡大できるように取り組んでいきたいと思っています。



株式会社大平昆布
専務取締役 伊藤 謙太郎 氏